

2013 Asia Youth Convocation Y'S MEN INTERNATIONAL

西日本区報告会 & 報告書



2014年1月25日（土）

ホテルクライトン新大阪

13:00～15:30

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

☆プログラム☆

13:00-13:55 第1部

◇アジアユースコンボケーションとは

◇AYCプログラムの紹介

13:55-14:10 休憩

14:10-15:10 第2部

◇AP NIGHT

◇ユース代表 スピーチ

15:10-15:30

総評

松本武彦西日本区次期理事

今年度のユースコンボケーションについて

岡野泰和アジア地域会長

閉会のご挨拶

正野忠之Yサ・ユース事業主任

2013 アジアユースコンボケーションーフィリピン

主題：“ユース、環境、奉仕”

2013年7月31日～8月4日

ワイズ指導者の皆様へ

マブハイ！

AYC（アジアユースコンボケーション）プログラムは、若いクリスチャンリーダーが「ユース、環境、奉仕」についての重要な問題について、それらに直面し、分析を行ない討論し、それらに立ち向かうことを通して問題を解決していくことを目的としています。このことによって、彼らのリーダーシップとコミュニケーションスキルをより一層開発し、強め、洗練していきます。彼らは楽しむ中で異なった文化や慣習に精通するようになり、友情を育み、そして生涯にわたる思い出を作ることができるでしょう。

今年のAYCは7月31日から8月4日にかけて、フィリピンで開催されます。主会場はカピテ州タガイタイ市のTICC（タガイタイ国際会議場）ですが、アジア地域会長主催の晩餐会と第25回アジア地域会議の閉会式は、バサイ市の「ホテル ソフィテル フィリピン プラザ マニラ」にて行なわれます。受入れ委員会は現在、“ユース、環境、奉仕（にYES）”という主題を深める中で、楽しさが一杯の、そして人生に変革をもたらすような会議にしようと、喜びつつ計画や組織を行なっています。

私はぜひこれらのために、すべてのワイズの指導者、ワイズメンズクラブ、ワイズサービスクラブ、ワイズユースクラブおよびワイズダムの友人たちからの支援をいただきながら、15歳から30歳のワイズリングおよびワイズリングリングスの年代の青年が、今年の7月にフィリピンで開催されるAYC2013に参加するように促していただきたいのです。ぜひフィリピンに来て楽しんでください。なぜなら、フィリピンには楽しいことが一杯あるからです。ユースにYES!、環境にYES!、奉仕にYES!、そして楽しめと友情にYES!と申し上げます。

明日を担う若きリーダーたちに会えることを、心から楽しみにしています。

Winston L. Ongchinke

AYC2013ーフィリピン 大会会長



AYCとは

参加メンバーが体験後にまとめた言葉です。
熱い思いが言葉にあふれています。

AYCを一言で表すと		AYCを自分の言葉で説明するなら
江面 智明 (初参加)	人格の交換	濃厚な時間を過ごし、お互いに影響しあって、化学反応しかけたところでバイバイになって、かえってからもテンションが高くて落ち着かなくていろいろ頑張って、エネルギーを各地で撒き散らす、そんなミラクルを生み出す場。
家田 奈津美 (初参加)	出逢い	“encounter something new” まず、この主語は自分でも、他人でも(友達、親、パートナーなどでも)、物や他の生き物にも当てはめることができると思って、抜いています。 encounter も、いつ自分に何に、気付くかわからないので、それが AYC 中なのか、行く前なのか、行ったあとなのか。ふちした瞬間にこれ！あーこのことだったのか！と人それぞれで違う“何か”を感じると思ったのでこの言葉を選びました。
下田 恵 (初参加)	発見 (説明) AYCに参加することやAYCの仲間と出会うことで新しい価値観とか考えが 発見できる。異文化はもちろん、日本 ってすごい！ってゆう発見にも繋がった 気がする。	出会い+人との繋がり AYCで出逢ったいろんな価値観を持ったいろんな仲間のことはもちろんやし、ワイズの方々とこうやって深く関わられたのもAYCのおかげやし、いろんな考え方や初めて知るいろんなことに出会えたけど、やっぱそれはいろんな出会いがあってこそかなって！ その上で自分たちの満足気？な表情や絆などを見て感じて欲しい。どれだけAYCが有意義なものであったかわかるように、動画を流したり再現できるものは再現したり。。
大槻 麻衣子 (初参加)	失敗がない場 (説明) みんなそれぞれ感じることを考えること 身に付けることが違うし、AYCで学んだ 全てのことがその人の人生の糧に なると思うから。	お互いに刺激を与えあって成長していける場。

AYCを一言で表すと		AYCを自分の言葉で説明するなら
桑田 勝弥 (初参加)	輪 (説明) 仲間との輪、学びの輪	自分の世界観の広がり。今まで見えていなかった部分。
延壽寺 海人 (初参加)	世界の入り口 (説明) 世界は外国とかだけでなく、参加者の人達(もちろん日本人も)や現地の環境、実際のAYCでの活動で新しい発見(世界)が少しあると思います。AYCは何か発見してそれを日本に持ち帰ってこれから活かしていけるような場やと思います。	
山田 麻里	出会い (説明) 沢山の友人と出会い、忘れられない経験、新たな自分との出会いなど、沢山の出会いが一週間に凝縮されていて、自分自身が成長出来る場所。海外旅行では絶対できない経験をさせてもらえる。	
前田 梨茶	出会い・成長の場	YMCAに関係している 15-30 歳のユースがアジア各国から集まってその年のテーマに合わせてディスカッションしたり講演を聞いたり学びの場になり、そこで出会った人達とディスカッションをしたりフレンドシップをはかることで日本にとどまらず広い視野を。
橋崎 真実	Future (説明) 参加したユースたちがこれからどんな未来を求めて自分の役割を担っていくか。	
山口 寛子 (初参加)	出会い	アジアのYMCAに関わるユースの交流。

- A Y R E l e c t i o n S p e e c h -

沖麻美さんがAYR(地域ユース代表)選挙に立候補した際のスピーチです。
AYRは任期が2年です。今年のインターナショナルユースコンボケーション(インド・チェンナイ)、来年開催予定のアジアユースコンボケーション(京都)までを担当します。

Hello everyone ! At the beginning of this speech, I'd like to say thank you for all staff who are supporting this AYC program. I think I'm so lucky that I could join this program and learning new things! I'm enjoying my new adventure very much and I like Philippines.

In this speech, I'd like to talk about three topics. First I would like to talk about the reason "Why I've decided to nominate myself for AYR". Second, my background which is "why I like global activities". Then third "The things that I would like to try if I would be chosen as AYR".

The reason why I've decided to nominate myself for the AYR election is that, it's one of my dreams to work with the people from all over the world. I would like to share new ideas and create new events which contribute to the society and also since I'm working at Hiroshima YMCA, I would like to give many opportunities to the people who are interested in global activities. So I think AYR is going to be a great chance for me.

Second I would like to share " My background that led me to like global activities" To be honest, I was not the person who could give the speech in front of the people, however, after what I've experienced, thorough global activities in not only in Japan but also in other countries .My way of thinking changed in a better way. It really broaden my views towards world and other cultures. I also could meet life time friends.

Finally, "The things that I would like to do if I was chosen as AYR are to support Y's Youth by giving them new chances but I also would like to particularly focus on listening their voices to know what they would like to try. I will make sure to contact other AYRs and Y's Youth in Asia frequently to create a strong bond so that we can take something new in action together. My respectful person told me that although what person can do is small, we are all making changes in other people's lives. So don't give up and take your part. I hope this will be my first step as a "Change maker"

Thank you very much for listening.

みなさん、こんにちは!!

まず初めに、この AYC プログラムに関わり、サポートしてくださっている全てのスタッフの方達に感謝の気持ちをお伝えします。私はこのプログラムに参加できたこと、その中で新たな学びがあることを幸運に思っております。また新しい世界への冒険をととても楽しんでますし、あとフィリピンが大好きです!

さて、このスピーチでは、3つのトピックについて述べたいと思います。1つ目に AYR 選挙に立候補した理由、二つ目に私がグローバルな視野での活動が好きな理由、そして私がもし AYR に選ばれたら挑戦したい事とは、の3点です。まず、私がこの AYR 選挙に挑戦した理由は、世界各国の人々と共

に新しい活動をすることが一つの夢であったからです。斬新なアイデアを世界の人達と共有し、新しい企画を立ち上げ、社会、そして世界に貢献していきたいと思っています。また私は現在広島YMCAで働いているので、グローバルな視野で活動することに興味を持つ人達へ、様々な機会や情報提供を行うことが可能であると考えた時、AYRは私にとってこの他にない素晴らしいチャンスだと思いました。

二つ目に私がグローバルな活動に夢中になるきっかけとなった私の背景のお話をします。実をいいますと、私は人前でスピーチができるような性格の人間では全くありませんでした。しかし、日本国内のみならず海外でのグローバルな活動の経験をこれまで通じて、考え方がとても前向きに変化しました。そして自分の視野が本当に広がりました。そこで大切な仲間たちとも出会うことが出来たことから、今の私があると思っています。

最後に、もしAYRに選ばれたら挑戦したいことは、ユースの人たちに夢や希望をもってもらえるようなきっかけづくりがしたいです。新しい機会を与え、ただ機会を与えるだけでなく、彼らが何を望み、何に挑戦したいのか、彼らの声にしっかり耳を傾けていくことです。他のエリア代表者と、またアジアのユースの人との連携をしっかりと、強い絆を築き、皆と共に一緒に新たなアクションを起こしていきます。

私の尊敬する人が教えてくださったように、一人にできることは、小さく限られているけれども、皆、他者の人生に影響を与えている「一人」であるからこそ、あきらめないうで、自分のできることをいま精一杯おこなっていきたいと思います。

わたしは今回のこの選挙がチェンジメーカー(変革者)へ近づける第一歩になればとおもっています。

ご清聴ありがとうございました。



- A Y C R e p o r t -

AYCの場でAYR（地域ユース代表）に選ばれた沖麻実さんが最終日に参加者へ向けて発信したメッセージです。

ICM members, delegates of the Area Convention, Y's Youth, ladies and gentlemen, My name is Asami Oki and I was elected as the Area Youth Representative (AYR) for Area Asia for the years 2013-2015. It is with great honor that I present to you the Area Youth Convocation Report for the AYC which was held from July 31-August 4, 2013. Over the past days, 28 delegates from Japan East and West, Philippines, and our IYR from Barbados, joined together under the theme 'YES'. Y stands for Youth, E for Environment, and S for Service.

国際議員の皆さん、エリア参加者の皆さん、ワイズユースの皆さん、ご列席の皆さん、私の名前は沖麻実です、2013年-2015年の任期でアジアエリアユース代表に選任されました。2013年の7月31日から8月4日にかけて開催されたアジアユースコンボケーションレポートの機会をあたえていただけることは、私にとって大きな名誉です。今回の大会には、東日本区、西日本区、フィリピンそしてバルバドスから国際ユース代表の総勢28名が'YES'というテーマのもと参加しました。Yは青年を意味し、Eは環境、そしてSは奉仕を表しています。

The program of activities was very enlightening and informative. It provided opportunities for delegates to share ideas, work together, and to develop leadership and communication skills.

プログラムはとても勉強になり、得るところの多いものでした。私たち参加者同士の意見を共有し、共に活動をし、リーダーシップ、そしてコミュニケーションスキルを向上させる機会を与えていただきました。

One of the major highlight was the community Outreach to "The Chosen Children Village." We met children who have various disabilities and who have been abandoned by their parents. This act of love was demonstrated through the donation of toiletries to the orphanage. There we saw children share their talents with us and special bonds were made as we interacted with the children

とても心に残ったプログラムの一つは、“選ばれた子供たちの村”への地域奉仕活動でした。障害を持った子供、両親に見捨てられた子供など、様々な背景を持つ子供達に出会いました。そこで私達はトイレトペーパーを寄付することで私達の奉仕の想いを伝えました。また、子供たちが私達のためにダンスを踊って訪問を歓迎してくれました。互いに交流を通じ、子供たちと私達の間に特別な絆が生まれました。

Another highlight of the convocation was Culture Night. Each region showcased their customs through dances, songs and presentations. The ultural attire of each

region was evident and added to the cultural experience. The planning committee did a great job at selecting the speakers to address the youth.

その他のプログラムでは、カルチャーナイトが好評でした。カルチャーナイトではそれぞれの地域メンバーが自分の文化をダンス、歌そしてプレゼンテーションをおこないながら披露しました。この発表は、私達にとって貴重な文化交流、体験のひとつになりました。そして講演会では、企画運営委員会の方々が演説に素晴らしいゲストスピーカーを選んでくださいました。

The first session which was entitled “Mind, Sprit, and Body Building towards Service” focused on taking pride when serving and the speaker explained the importance of understanding your purpose in life. He encouraged and inspired us and made us think deeply about serving others.

最初の講演は、「心・精神・そして奉仕活動に向けての体力作り」という題目で、奉仕をすることに「誇りをもつ」ということ、各々の人生の目的を知ることがいかに重要か、ということに重点を置いてお話して下さいました。私たちに自信とやる気をおこさせ、他者へ奉仕を行うことについて深く考えさせてくれました。

The second session which was entitled “Environment : A Gift From God” focused on the serious problems which we are facing with deforestation especially the Philippines. His presentation awakened the youth to be aware of the environmental problems and gave us useful tips on how we could better take care of our environment. This information gathered would be a useful tool in the execution of environmental projects across the globe.

二番目の講演は、「環境：神様からの贈り物」という題目で、特にフィリピンで人々が直面している森林伐採の問題について話されました。ユースに環境問題を自覚させ、そして私達が環境をどのように保護できるのか、その方法への有益なヒントを得ることができました。ここで集められた情報は世界中の環境プロジェクトの実践に有益なツールとなることでしょう。

Moreover, the third session, which was very interactive, was entitled “Youth on Fire” The presentation was well-prepared and the speaker encouraged total participation from the youth. The main point of this session was to understand our thoughts and habits and how these can positively impact on an individual’s life. She helped us to visualize problems and to be open to various point of views. She challenged us to keep sharing information so that the other youth could be inspired to serve.

さらに3番目の講演は「Youth on Fire」でとてもよく準備されたプレゼンテーションで参加型の講演でした。ゲストの方は、ユースに全員参加するようすすめました。そしてこのセッションを通じいろんな対話をすることができました。この講義のメインポイントは、私達の考え、習慣を理解しどのようにしたらこれらを前向きな人生の糧にすることができるのかということでした。彼女の助言で私たちは各々の問題を視覚化し、様々な視点に目を向けることができました。彼女が私たちに求めることは、私達が吸収し学んだ情報を他のユースに共有することで、他のユースにも奉仕の精神を持ち続けてもらうよう、やる気をおこさせることでした。

Apart from these sessions, we were privileged to visit the Taal Volcano which was a very wonderful experience. The group activities were very interesting and

interactive. The delegates enjoyed the Philippine culture and our Philippine family enjoyed feeding us every two to three hours... I think I have gained some weight. The people of the

観光では、タール火山へ登るという素晴らしい経験をさせていただきました。

グループ活動はとても楽しく、相互にいい影響を与えるものでした。私達はフィリピンの文化を楽しみました。また、フィリピンの人達は、2～3時間おきに私達にフィリピンの食べ物を与えることを楽しんでいるようでした。おかげで、少し太ってしまった気がします……

Philippines are very friendly, loving, and clever and they did a great job at coordinating the convention. It was disappointing that we did not have more participants from across the area; however, the Japanese, Filipino and Barbadian formed great friendships and fond memories. We wish to thank the Committee Chairperson Winston Ongchinke and his hardworking team for a job well done and for ensuring that this convocation was total success.

フィリピンの人達はとても友好的で、愛らしく、聡明で、そしてこのAYCをコーディネートするにあたり素晴らしいサポートを行ってくださいました。エリアの中からの参加人数が今回少なかったことはとても残念でした。しかし、日本人、フィリピン人、バルバドスと素敵な友情と思い出を共に築くことが出来ました。私達は運営委員長のWinston Ongchinkeさん、そしてAYC成功のために尽力してくださった委員会の方々に感謝の意を表したいと思います。

In conclusion, ladies and gentleman, I now fill the shoes as Area Youth Representative for the next two years. I publicly pledge my commitment to the organization and I look forward to working with the members of the Youth committee in sharing ideas, strengthening communication, and promoting service. I am thankful that the young people entrusted me with such an honor to serve in this capacity and I will do my best to promote the efforts Area Asia. My fellow Y's family across the various areas of the world, I thank you for listening to the youth report and I wish you continued success in all your endeavors. Always "YES" Yes to Youth, Yes to Eenvironment, and YES for Service. Thank you and safe travel to your various destinations.

最後になりましたがご列席の皆さん、私はこの先2年間、アジアのエリアユース代表として重責を担う覚悟です。皆様の前でそのことを約束します。ユースコミッティと一緒に、意見を共有し一層のコミュニケーションを図りながら、奉仕活動をすすめていきたいと思っています。そしてユース奉仕活動のさらなる発展に向けて活動していきます。私はユースの仲間たちに信頼していただいたこと、この役割を与えていただいたことに感謝していますし、アジアエリア向上のため自分のベストを尽くします。世界中のY'sファミリーの皆様、私のレポートを聞いていただきありがとうございます。そして皆様のご健勝とご多幸をお祈りしております。

常にYES! Yes to Youth, Yes to Environment, Yes to Service

Thank you and safe travel to your various destinations.

ご清聴ありがとうございました。

◇報告書◇

マニラから帰国後、参加メンバーは参加時の約束通り、支援していただいた各地で報告会を開催し、報告書を作成、西日本区へ提出しました。そのすべてをここにお届けします。ひとりひとりの思いと体験を感じ取ってください。



繋がる輪

広島 YMCA 専門学校 職員
沖 麻実



関西空港を飛び立つ直前、いよいよ待ちに待った日がやってきたのだと、胸が高鳴っていたことをまるで昨日のこのように思い出します。プログラムには、東日本区、西日本区、フィリピン、そしてバルバトスから参加の国際ユース代表（IYR）の方の28名が一緒に参加しました。今回は、国の不安定な情勢により参加者が「日本」と「フィリピン」の2カ国のみであったのはとても残念でした。しかし、そんな状況をもものともせず、互いの絆を深め合える最高の仲間達であったからこそ、逆に得るものが多かったと思っています。最初は、みんな緊張した様子でした。言葉の壁は大なり小なりありましたが、気が付いた時には皆で輪を作り夜遅くまで元気にダンスを踊り明かすまでに打ち解けていました。フィリピンの学生たちはとても親切で、積極性があり、自分の意見を堂々と述べている姿にはこっちが見習わなくてはと思う程です。互いの国の言語を教え合い、また教わった言葉で話してみるといった、些細な交流から“もっと相手のことをよく知りたい”という姿勢と積極的に動いていく皆の様子を見て、“国際交流ってやっぱり楽しいな”と改めて思いました。ゲストスピーカーを招き、これから求められるリーダーシップ性を学んだ講義、皆の以外な一面を知ることができた文化発表、実際に施設を訪ね、現地の方のお話を聞くといった、どのプログラムもとても濃い内容のものでした。途中、「海外」ならではのハプニングも幾度か起こりましたが、ここでは臨機応変に対処することの大切さも学べたと思います。自分のステップアップに繋がると思い挑んだAYRの選挙で、アジアユース代表に選ばれた時は、正直、喜びと同時に大きなミッションを背負うことへの不安と半々でしたが、同じ想いを分かち合えた仲間の存在と選んでくれた人たちの想いに答えられるよう、決意を新たに頑張っていこうと思います。このAYCは、ユースの可能性は“無限”に広がっているという大切なことを教えてくれました。寝食を共にしながら、毎晩自分たちの夢について語り明かした大切な仲間たちのこと、また個々の想いを蝋燭の明かりに灯し、自分たちの夢を語った最終日の夜でのことは一生忘れません。

今後は、他文化へ触れることの楽しさ、新しいことへ挑戦することの大切さを自分の体験をベースに多くの方に共有していきたいと思っています。そしてユース活動のさらなる発展の力になればと思っています。

グローバルな世界になった今、地球市民の一人として、世界の方達との関わりを築いていながらそしてユースの仲間たちと共に力を合わせながら、これからも前進していきます。

AYC開催にあたって準備より関わってこられた方々、また参加の機会を与え、サポートしていただいたワイズメンズクラブの方々に感謝の気持ちを込めて結びの言葉とさせていただきます。私たちに新たな夢と希望を与えてくださり、本当にありがとうございました。

今回、アジアユースコンボケーションに行かしてもらい、さまざまなことを考えさせる機会がありました。フィリピンでは自分の未熟な点に気付かされた時もありました。しかし、今回の経験を通してもっといろんなことに挑戦をしたいと思いました。特に人との繋がりをもっと大切にしていきたいと感じました。数十年後、自分の人生を振り返るときにこの6日間の出来事がとても貴重な経験だったと思えるときが必ずくると思います。また、今回支援をして下さったY'sクラブ国際協力西日本地区・阪和部、奈良Y'sクラブの方達には、厚く御礼申し上げます。今回、こういった経験をさしてもらい私は幸運だと思います。



フィリピンに行く前に私は今回のアジアユースコンボケーションでいろいろな人たちと交流を図ることを目標にしていました。しかし、フィリピンに到着をした1日目、2日目は自分からなかなか話すことが出来ませんでした。自分の英語力ではあまり上手く聞き取ることが出来なく、初めは自分から話しかけられませんでした。話したいという気持ちはあるのに上手くコミュニケーションが取れなくて不甲斐ない気持ちになりました。しかし、英語力は高くなくても気持ちを伝えようと交流を深められるようになりました。上手く伝わらないこともありましたが、コミュニケーションをとることはとても楽しかったです。日が経つにつれて徐々に仲良くなることは出来ましたが英語が上手だったらお互いにもっと伝えたいことが相手に伝わるのだらうと思いました。SESSIONでは環境問題や人間の成長、Y'sについての話で全ては理解をすることは出来ませんでした。しかし、仲間たちと話し合うことでそれらのことを学び英語力も少し身に付き良い経験になったと思います。

一つひとつのプログラムが私にとってとても楽しい思い出になりました。特にカルチャーナイトでは参加している人たちとの仲が深まることが出来ました。また、フィリピンの人たちはフィリピンの子供たちの遊びを紹介していて日本に帰ってから子供たちに教えたいと思いました。

さまざまなプログラムを行うにつれて、たくさんのメンバーとも仲良くなる事が出来て、私はとても嬉しかったです。今まで私は奈良YMCAの中でしか繋がりがありませんでした。しかし、今回のアジアユースコンボケーションを通して西日本・東日本そしてアジアの人たちと繋がることができました。改めてYMCAのY'sの繋がりの規模の大きさを感じました。私はこのアジアユースコンボケーションで経験したことを奈良の人たちに伝えていきたいと思っています。また、これからYMCA・Y'sの活動にもっと積極的に参加していきたいと思っています。

今回の6日間は自分の人生の中でとても素晴らしい経験になりました。参加していたメンバー全員がそれぞれ高いスキルを持っていてこの6日間とても刺激を受けました。まだまだ長い大学生活で色々なことに挑戦していこうと思いました。そうすることで今回のようなまた新しい繋がりが生まれるのではと思います。そして、もっと色々な世界の人たち出会い、広い視野をもった人間になりたいです。





私は今回、初めてAYCに参加させていただきました。まず、このような機会を与えてくださったワイズの皆様、そして堺YMCAをはじめとするYMCA関係者に本当に感謝いたします。自分の所属するYMCAで定例の活動があったためオリエンテーションに参加できなかった私は、初対面の人たちに囲まれ不安をたくさん抱えたまま出国しました。ですが、そんな不安とは裏腹に、とても充実した、とても素敵な6日間を過ごすことができました。

緊張しながら飛行機に乗り、他の参加者と話しながら、ついにフィリピンに到着しました。フィリピンに到着してまず驚いたのは、参加国が日本とフィリピンの2か国だけであったことです。アジアのいろんな国からユースが集まると

思っていたのですが、2か国しかいなかった分お互いがより濃く関われた気がします。そして、ディスカッションの場でしっかりと自分の意見を持ち堂々を発言する同年代のユースを見て、自分を見つめなおすきっかけにもなりました。

ディスカッションなど、彼らと話す機会はもちろんたくさんあり、英語が話せることの重要さを身に染みて感じました。英語が話せるだけで、どれだけ多くの人々とコミュニケーションをとることができるのか、彼らと会話する中で思い知らされた気がします。

AYCで初めて出会った者同士が意見を出し合い、文化発表を成功させたこと。フィリピンのユースからダンスを教わり、APBallで披露したこと。一緒にボートと馬にのって火山に行ったこと。そのほかにもたくさん、参加ユースとの思い出ができました。彼らとは、facebookやSkypeで今でもつながっています。この出会いを大切に、いつかひとまわり大きくなった自分で彼らに再会できるよう、YMCAでの活動、そして勉学に励んでいきます。

私は今回のアジアユースコンボケーションが初めての参加となります。普段、ボランティアリーダーとして子どもたちと野外活動に取り組んでいますが、このAYCのお話を聞いたときにすぐさま「行きたいです!」と手を挙げさせていただきました。日頃から大学でフィリピンの情勢についての講義を受けていたこと、アジアの学生たちと話してみたいというのが最初の理由でした。

実際に参加し、今回は残念ながらフィリピンと日本の2か国だけの参加となりましたが、その分一人ひとりとより深く関わることができました。拙い英語でしたが、自分の気持ちを一生懸命伝えようとすると、フィ



リピン人は必ず「こういうことであって?」と確認をしてくれたので、相手と自分ともいつも真剣に向き合うことができました。また、宿泊していた部屋のトイレが壊れ、ハウスキーパーに直してもらっていたところをフィリピンの参加者たちが血相を変えて、部屋に変な人が入っていったからすぐさま自分の荷物を確認した方がいい。と部屋にかけつけてくれ、フィリピンの人たちのあたたかさに身をもって触れました。

フィリピンに行く前に「いったもん勝ち」という言葉をワイズメンの方からいただきましたが、わたしは「言ったもん勝ち」、「行ったもん勝ち」の両方ともがこれからのユースに必要なものだと感じました。言葉にすること、行動すること、この2つはこれからの世界での活動に大切なものです。不安を感じることもありました。しかし、まずはしてみなければ、挑戦しなければ何も起こらないのだと私はAYCで学びました。

このような機会を与えてくださったワイズメンの方々に感謝いたします。AYCは国際交流ができる場でもあります、日本という国、自分という人を改めて外から見るができる場でもあります。もっと早くから関わりたかったという気持ちはありますが、次回のインドでの開催にさっそく参加したいと考えています。

ユースのみなさん、「いったもんがち」です。迷うことなく、まずは参加してみてください。
この度はあたたかいご支援、ご機会を頂き本当にありがとうございました。

私とワイズメンズクラブの13年間

ワイズユースクラブ・姫路 Y-3 橋崎真実

2001年に台湾の台中で行われたアジアユースコンボケーションに16歳で初めて参加させていただいてから13年間、たくさんの方々のご支援のもと、アジア大会、ヨーロッパ大会、アフリカ大会、そして国際大会に参加させて頂きました。2010年から2011年にはユースインターンとしてワイズ国際協会本部で務めさせていただきました。私がユースコンボケーシ



ョン、そしてワイズ活動を通してワイズメンズクラブに教わった事は本当に数知れません。出会ってから10年以上にもなる本当にかげがえのない友人達が世界各国にいて、国際協力、国際理解、文化の違いから生じるすべての壁を越えて互いに助け合うことの大切さを学び、そしてそれが出来るフィールドを与えられたこと、そして、1人1人のことを固定観念や一般論の枠を超えて見つめ、接する事が出来るようになったことは私にとって本当に宝物です。

そして、ワイズメンズクラブの中で、ユースという立場でワイズ活動に参加出来た事は、私が今さまざまな事柄をどのように考え、感じ、そしてそれに対して行動しているかという、私の自己形成の部分においてとても大きな影響を与えています。ワイズを通じた経験がなければ、今のように世界に目を向けることもなかっただろうし、本当の意味で全ての壁を取り払って1人の人として世界各国の方々を見るというスキルも与えられなかったと思います。

自分自身で経験し、ワイズの方々に育てられた者として、いかにユースを、若い時から育てる事が大切かということを感じます。まだ自分というものを模索中で、感受性が強く、たくさんの事を吸収することが出来、経験した事柄によってこれからの自分の在り方や考え方を大きく左右するその年代だからこそ、確固たるミッションを持ち、こんなにも素晴らしい機会が与えられるこのワイズメンズクラブで、人生に大切な3つの柱であるMind, Body, Spiritを大きく成長させてほしいと思います。そして、そうして育ち、しっかりとした基盤をもった人を日本各地、世界に送り出すという、本当の青年育成という大役を担う場としてワイズがあるのではないかと感じます。

Once a Y's, forever a Y's. 私もその一人だと思います。これからはユースという立場ではなくなりますが、これからユースとしてワイズメンズクラブに育てて頂いた者として、今を担っているワイズユースを少しでも手助けしていくことが出来ればと思います。2年後に京都で行われるアジア大会、アジアユースコンボケーションのお手伝い、そして西日本区より選出された現アジアユース代表を精いっぱい支えていきたいと思っています。

13年間、ワイズユースとして本当にたくさんのご支援を頂き、本当に感謝でいっぱいです。皆さまお一人お一人の温かいお言葉と、娘のように可愛がっていただいたこの13年間は本当にかけがえのないものです。まだまだ未熟な私ですが、今後ともご支援ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。



アジア・ユースコンボケーション（以下 AYC）は本当にかけがえのない体験となりました。私の体験としては、AYC に行く前と後とで、日常の感じ方が少し変わったように思います。ふだん私たちが体験する出会いは、次回会うことを前提としていますが、AYC ではメンバー全員が一同に集まる機会はその一度きりしかありません。そのような一回性が私たちに何らかの変化をもたらすのではないかと思います。

AYC に行く以前、オリエンテーションで私たちは数々のアドバイスを頂きましたが、そのなかでも私のもっとも基本的な指針となったものは、「何々をえようと最初から規定してしまうのではなく自然体で臨め」というものでした。「最初から自分の限られた価値観でえるものを決めてしまうと可能性がせばまる」という意味に私は解釈しました。それだけを頼りにマニラへ出発しました。

いざ、マニラへ行ってみると、そこでは貴重な出会いや発見の連続でした。国内外をとわずかけがえのない友人をえたことや、フィリピンの文化に肌で触れられたこと、他国の方々と自国語以外の言語で交流することの楽しさを知ったことは私の一生の財産です。今年度の AYC はフィリピンと日本の 2 カ国の参加になりましたが、フィリピンの参加者は主に中国系の方々でした。フィリピンの

メンバーと、中国語、日本語双方の熟語を書き出しつつ、言葉の共通点を確認できたことは忘れられません（写真参照）。平和はこのようにしてひろがっていくのかなと実感することができました。フィリピンの方のみならず、日本の方とも貴重なつながりができました。

AYC から帰ってから、学んだことを活かしたいという気持ちは強くもっていたものの、どのように活かしたらよいか考えあぐねていました。いろいろ試行錯誤したあげく、英語で表現することを習慣にすることにしました。（「習慣づくり」は AYC で受けた講義の一つのテーマでした。）日本に帰ってからもフィリピンのメンバーとのやりとりが幸いなことに続いていて、以前までは自分の中に知識として存在するだけであった英語が、実際にツールとして役立っていることに喜びを感じています。英語をふだんから用いることが英語の良い練習になっています。

マニラでの日々は、素敵な発見や出会いの連続で、夢のような日々でした。そのような日々は、様々なひとの支えがあって成り立ちました。AYC の参加を支援してくださった方々や、AYC を準備してくださった方々、アジア大会を準備してくださった方々、そしてそれぞれに参加した皆様、さらには、参加の OK を出してくださった私の職場の皆様、すべての方のご縁があって成り立ちました。AYC でえたことを活かしていくこと、そして伝えていくことが自分の使命であると感じています。

末筆になりましたが、このようなかけがえのない機会を与えてくださった皆様方に心より感謝申し上げます。そしてこの貴重な体験を一人でも多くのユースが共有できることを願っています。

『出会いと感動』

宝塚ワイズメンズクラブ 桑田 勝弥



今回初めて AYC に参加するにあたり、最初は緊張と不安でいっぱいでした。その理由として、ひとつは初めての参加であり、もう一つは語学力の不安でした。

現地に到着すると、日本語以外の言葉での会話ばかりに驚きと不安が増していく自分を感じていました。しかし、素晴らしい仲間を支えられ、気がつくとみんなに打ち解けていました。

さまざまな状況に圧倒されながらも私は「とにかくチャレンジ！」する

ことを自分に言い聞かせ、過ごしていくうちに不安な気持ちも少しずつなくなっていました。
また、AYC とはどんなものなのかということも自分なりに実感していくうちに不安な気持ちもなくなってきました。

今回の AYC のテーマでもあった“環境”についてグループや全体で話し合ったことで、私自身が関われることは少ないかもしれませんが、私自身、まずは身近なことから行動していこうと改めて感じました。そして保育の現場でも子どもたちに今回の経験を伝えていきたいと思いました。

今回 AYC に参加したことは私にとって、とてもいい経験になったと共に、自身の世界観が広がり、更に語学力をもっと身に付けている人とのコミュニケーションや交流に活かしたいと思いました。

最後に私が AYC に参加するにあたり、ご支援ご指導を賜り、また参加の機会を与えてくださった方々に心から感謝を致します。

私は、今回の AYC への参加を通して、自分ももっとワイズメンズクラブの活動の輪を広げてモチベーションを高め、今の気持ちを忘れずに、これからもワイズメンズクラブのミッションを大切に、情熱を持って行動を起こしていきたいと思います。

私にもできること

ワイズユースクラブ姫路 Y-3 山田 麻里



今回で3回目のユースコンボケーションになるのですが、今回のフィリピンは1度目、2度目の時とは雰囲気の違いとなりました。行きの飛行機の中で、今までに出会った子達との再会や、新たなる出会いに胸を弾ませていたのですが、宿泊先のホテルに到着すると、参加者は日本人とフィリピン人だけで、その大半が日本人だと聞きとても驚きました。1週間どうって行くのだろうと少し不安に思いましたが、その不安はすぐにかき消され、私にとって忘れられない1週間になりました。

参加人数が少なかったこともあり、全員とよくコミュニケーションを取ることが出来ました。みんなとの共同生活の中で、個人個人のバックグラウンドを知り、人間として、女性としてとても刺激を受けました。自分より若いメンバーも多かったのですが、若いのにしっかりしているなあ、自分の20歳なんてこんなにバイタリティなかったなあと少し反省しました。別々の地域で活動しますが、今後も交流していけたらいいと思います。

滞在中の生活は、シャワーが水しか出なかったり、トイレが流れなかったりと、日本で生活していれば当たり前に行えることが、当たり前に行えない場面に多々出くわします。それが、海外旅行の醍醐味でもあるのですが、やはり不便に感じます。いかに自分が恵まれた環境に置かれていて、それに感謝することを忘れてしまっていたかを思い出しました。日本に帰国してから水道の蛇口をひねると、たくさん清潔なお水が出てくることに少し不安を覚えました。これは限りある資源で、これがいつかストップしてしまう日が来たら…。考えるだけで恐ろしいです。今ある当たり前は、当たり前なんかではないと改めて実感し、考えるきっかけになりました。今一度、環境について一人ひとりが目を向けていかなければいけないと感じました。

もう1つ考えさせられた事がありました。フィリピンでは大きな建物や観光施設の入口には必ず警備の人がいて、銃を携帯しているのを見かけました。普段、銃を実際に見ることも触ることもない私には、おもちゃのように感じてしまいましたが、少し怖さも感じました。昨年、シリアでジャーナリストの山本美香さんが銃弾によって命を奪われるという事件がありました。そのニュースを聞いたとき、色々な感情がこみ上げたのを思い出しました。銃で守られているモノもあるのかもしれませんが、誤射などの悲惨な事故が起きているのも事実です。銃で何を守り、何と戦っているのか少し疑問に感じてしまいます。

全体を通しては、やはり自分の英語力の至らなさを感じました。前回よりは成長した面もあるのですが、ディスカッションするにはあまりに稚拙で、課題が残りました。これをモチベーションにして、勉強を頑張りたいと思います。

私は、ユースコンボケーションをはじめとする、ユースの活動に参加していく中で、様々な貴重な経験をさせて頂きました。その経験は『自分にも何か出来るかもしれない』とゆう自信を与えてくれました。この自信を少しずつ行動に変えていき、何事にも挑戦していける人間でありたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会とご支援をありがとうございました。

フィリピンでの体験

ワイズユースクラブ姫路Y3 前田 梨茶



私は初め今回のユースコンボケーションに参加するつもりはなかったのですが今回ユースとして参加することが最後だったので参加することを決めました。

今回のAYCはフィリピンとバルバドス、日本のみの参加だったため、最初とても驚き、寂しく思いました。しかし、人数が少なかったのでひとりひとりとの関わりが強くなり仲良くなることができました。今回特に印象に残ったことは、孤児が住む施設を訪問したこと、火山観光、また3つの環境に対するレクチャーを聞いたことです。孤児が住む施設に行って私たちに歌を歌ってくれたりダンスをしてくれたり短い間で子どもたちと触れ合うことができました。悲しい過去がそれぞれあるにもかかわらず明るく私たちに笑顔を見せてくれる子どもたちの姿に感動しました。そしてその子どもたちを温かく愛情いっぱい育てているスタッフの姿にも感動しました。火山観光で心に残っているのは火山のことではありません。火山に登るのに観光客のための馬がいました。その馬の世話をしている中に、子どももいたということです。学校にも行かず9歳で働いていました。学校もないし教える先生もいない。一生懸命暑い中、馬の手入れをしたり、観光客を火山の上まで馬で乗せて行ったりしていました。日本では考えられないことです。また3つのレクチャーを通して環境を守ることは大切である、それは自分たちだけのためではなく次世代のためにも大切であり、美しい地球を守らなければならないと再認識することができました。ひとりひとりが自分を愛し、他人を愛する、思いやる心が環境を守ることに繋がると思いました。

私がフィリピンに行くまでのフィリピンのイメージ、それは青い海、ビーチ、優雅なリゾートでした。実際フィリピンに行ってみると全然イメージは違いました。裸足で道を歩いている人、子どもがゴミの中で何かを探しているところ、一生懸命働く子どもがいるところを見て、自分たちがどんなに豊かな国で育ち、豊かな生活を送っているのかを思い知らされました。自分たちの幸せな環境を当たり前だと思わず、日々感謝し、奉仕の心、隣人愛を忘れないようにしようと思いました。そして、それを自分の家族、友人、知り合いなどに伝え、ひとりでも多くの人に呼びかけることが大切だと思います。

毎回ユースコンボケーションに参加して思うこと、それはひとりひとりできることは小さいけれど諦めずみんなでひとつのことを続けることが大切であるということ。今回もそのことを学びました。このような貴重な機会をいつも与えてくださるワイズメンズクラブの皆様へ感謝します。ありがとうございました。今回が私にとっての最後のユースコンボケーションでしたが今後も何らかの形で支援できたらなと思っています。

言葉の重み

京都部ユース組織「ボラッツ」 大槻麻衣子

今の活動は、“環境”について考えることが大きなテーマとなっていました。その中で、Chosen Children Village（以下 CCV）での施設の方の言葉と、それを聞いた際に感じたこと、考えたことが特に重要であり、大切だと感じたので、そのことを中心に報告書を書かせていただきます。

CCV は精神的・肉体的に障害のある子どもたちのための家（施設）で、学校、リハビリテーションセンターなどがありました。子どもたちにダンスや歌で歓迎をしてもらった後、施設の方に CCV 内の案内をしていただきました。体育館・多目的ルームに案内していただいた際、施設の方に「私たちは五体満足で生まれたのだから、感謝しなければなりません。手足はあるし、耳は聞こえるし、目は見えるのですから。彼（女）らは五体満足を経験することは出来ないし、私たちも恐らく彼（女）らの生活を経験することはありません。大切なのは感謝する気持ち（thankful）です。」と話していただきました。実際に CCV の子どもたちと接し、子どもたちが障害を持っているように見えなかった分、今まで学校の授業などで言われてきた言葉とは重みが違うと感じ、とても強く響きました。私たちが普段当然のように感じていることの重要性を改めて考える大切な機会になりました。私たちは普段、目が見えること、耳が聞こえることが当たり前なことだということにすら気付かないまま生活していますが、その当たり前のことに感謝しなければいけないと思いました。そして、感謝するだけではなく、障害を持った方たちのことをもっとよく知り、生活しやすい環境作りを小さなことからでもしていくべきだと感じました。

また、フィリピンでの 6 日間生活の中で、自分の英語力の低さを痛感しました。大学を卒業してからは英語に触れる機会がほとんど無いに等しかったため、今まで身に付けてきたリスニング力、スピーキング力、単語力が著しく低下していました。継続力の大切さを実感し、生活を改善しなければならないと強く感じたので、そういった意味で、自己の内面を見つめ直すきっかけにもなりました。

AYC 参加後の私の目標は、セッションの一つにあった“Every moment I should live with reasons and destination.”ということです。理由や目標を持たないまま、ただ漠然と生活していくのではなく、何か小さなことでも目標を持って生活していこうと思います。

最後になりましたが、初の AYC 参加にあたり、たくさんのご支援をいただきありがとうございます。参加して実際に触れてみなければ、普段の生活では気付かないことを多く学び、考えることが出来ました。心より感謝致します。



AYC2013 報告書

熊本にしワイズメンズクラブ 町田美咲



以前からワイズの方や実際に参加したことのある方に話を聴いて参加したいと思っていたので、15歳を迎えた今年、私は初めてユースコンボケーションに参加させていただきました。実際に参加し、異国の地で多くの友人と出会い、友情で結びつき、中学生最後の夏休みが充実したものとなり、自分自身でも成長できたと思います。

私は、行く前から『言葉の壁』がとても不安でした。事前の日本でのオリエンテーションで英語で自己紹介をした時、緊張もあってカタコトなあいさつとなってしまったからです。

実際、フィリピンで、最初はなかなか話すことができませんでしたが、少しずつわかる文法、単語をつなげていくうちになんとか会話が续くようになり、笑顔でコミュニケーションできるようになっていきました。コミュニケーションできると楽しくなり、自然と積極的に話しかけることができました。参加したすべての人と交流を持つことができたことで多くの友人ができました。

言葉の壁を乗り越えるには自分の気持ち次第で簡単になるとわかり、もう恐くないし、むしろ楽しくなりました。

今後もっと英語力をあげて、自分の思いを伝えていけるようになり、積極的に討論できるようになりたいです。

AYCの主題の'YES'に関連して、フィリピンで体験したことは、私のなかにとどめることなく、家族や友達、出会った人たちに伝えていきたいです。また、自分自身の生活にも活かしていきたいです。

最後になりましたが、このAYCに参加するにあたってサポートしてくださった皆様、本当にありがとうございました。今後もユースコンボケーションに参加したいと思いますので、ユースコンボケーションが续くようご支援よろしくお願ひいたします。

フィリピンマニラでのアジアユースコンボケーションに参加して

滋賀蒲生野ワイズメンズクラブ 山口寛子

私は滋賀蒲生野ワイズメンズクラブに所属しています。大学院のときにYMCAの寮に住んでいた経緯から、ワイズメンズクラブを紹介してもらいました。今回、フィリピンのマニラを見てみたかったことと、日本やアジアに新しい友達ができたらという思いで、参加させてもらいました。

プログラムでは、フィリピンからの9名の参加者と日本から18名の参加者、フィリピンのスタッフの方とインターナショナルユース代表のステファンとで、フィリピンを独立に導いたアギナルドの記念館や、障害を持った孤児の家の訪問や、フィリピンのゴミ問題や森林伐採など環境の学習、ダンスの出し物を通した交流、タール火山の観光等を行い、とても充実した時間を過ごしました。特にカルチュラルナイトの出し物のファッションショー&ダンスの練習は大いに盛り上がり、初めて会った参加者ともぐっと距離が近くなりました。プログラムの後半には各国のワイズメンズクラブの方が集まる交流パーティと閉会式に参加させていただき、普段あまり関わりのない日本の遠方のワイズメンズクラブの方とお話させていただき、とても貴重な機会をいただきました。

毎日、早朝から夜遅くまで、すごく濃いスケジュールで、時間の経つのがとても早く感じられました。プログラムの実施にあたっては、ずっと救急と消防の資格を持った2人の方と警備の方がついてくださり、私たちの安全を守ってくれました。

マニラの町は派手な色のジープと呼ばれる乗り合いバスやたくさんの日本の中古車が走り、タクシーに乗らないかと声をかける男の人がいて、ショッピングセンターやホテルには、バッグの中を確認する警備の人と大きな犬がいました。ホテルの窓からはスラムの屋根が見え、マニラ湾は薄い灰水色でどこまでも続いているように見えました。

今回の参加にあたって、蒲生野クラブの皆様や、びわこ部の皆様、西日本区の皆様にご支援をいただき、フィリピンのYMCAの方をはじめ、とてもたくさんの方々のお力添えによって、無事に楽しく参加させていただけたことに心からお礼を申し上げます。今回の人とのつながりや学びを今後の糧にしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。



